

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
(1) 入学者の確保 ・県および市町村教育委員会、県内中学校校長会、中学校教員の教育研究団体等と情報交換を行うための交流活動を推進する。 ・中学生向けイベント等への協力について検討し、メディアやイベントを通じた学校名の浸透を図る。 ・長岡高専ホームページのアクセスログを解析し、学生獲得のための戦略資料とする。	・7月24日(火)に新潟市立白新中学校校長(新潟県中学校長会会長)を訪問し、校長間での情報交換を行った。9月5日(水)に56校が参加する新潟市定例中学校長会に、校長が出席してPR活動を行った。同日、新潟県内に30校以上の進学塾を展開しているNSG教育研究会を訪問し、情報交換を行うとともに資料配布等についての協力を依頼した。来年度はオープンキャンパス前に実施するよう準備したい。さらに交流範囲を広げることにについて検討を続けたい。 ・7月21日(土)、22日(日)に埼玉県で開催された彩の国進学フェアに出展し、個別相談を行った。8月18日(土)に開催されたBSN・TOP杯第13回新潟県数学選手権中学生大会に協賛し、参加中学生59名に対し学校紹介を行った。8月24日(金)、25日(土)に開催された第66回日本PTA全国研究大会新潟大会に協賛し、広告掲載を行った。昨年度まで長岡市教育委員会が主催であった中学生向けの数学アカデミーを引き継ぎ、10月17日(水)に実施、参加者29名を集めた。12月16日(土)に放映された新潟県内高校受験対策講座「BSN・TOPテレビ模試」に協賛し、問題用紙への広告掲載と、12月15日(土)にTVCM放映を行った。新聞報道等の実績を集め、公式Webサーバに掲載を行っている。 ・公式Webサーバのアクセス統計情報を毎月確認し、閲覧数の多いページを把握するよう努めているが、詳細な解析にまで至っていない。中学生とその保護者向けのメルマガは226件の登録があり、前年の最終登録数約111%に達した。メルマガは第16号まで発行した。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
・オープンキャンパスの告知方法および実施内容、体験学習内容の改善に取り組む。 ・入試説明会、中学校訪問、中学生向け進学イベントにおける説明資料および説明内容の充実を図る。 ・在校生、後援会、同窓会の協力を得ながら、進学イベント参加者を増やす試みや志願者が少ない地域および中学校へのPRに取り組む。 ・女子中学生向けホームページを引き続き活用するとともに、「高専女子パンフレット(長岡高専版)」を県内・近県の中学校に配布を行って、女子中学生への広報活動を進める。 ・本校に適正を持つ女子中学生の獲得に向けて、女子中学生向けの進路相談会や科学体験・講演会を実施する。また、オープンキャンパスで女子中学生限定テーマを開講する。 ・中学校の技術科の授業で使えるような教材を中学校と共同で開発し、中学校に案内を行う。	・オープンキャンパス参加募集期間に、新潟市内の中学10校、上越市内の中学4校を訪問してPR活動を行った。8月4日(土)、5日(日)の2日間開催したオープンキャンパスの参加者のべ数は前年比7%増加の1167名となった。体験学習はテーマ間の参加人数のバランスの改善を図り、格差が昨年度の4.0倍から2.7倍に縮小された。2日間とも参加する保護者向けのプログラム充実が課題である。 ・学校案内やリーフレットなどの印刷物および、各種プレゼン資料を更新した。新聞掲載記事を整理した資料をオープンキャンパス以降のイベントで配布している。オープンキャンパスの参加中学生向けのアンケートで、学校説明に対する最良評価の割合が昨年度の66%から74%に向上した。 ・11月3日(土)、4日(日)に開催された学園祭で、「後援会サロン」として中学生及び保護者向けの相談コーナーを開設し、広報戦略室主催の「学校説明＆入試相談」と連携して大阪府、千葉県、佐渡市などの遠方からの相談者の対応を行った。更なる連携強化に向けて情報の集約と効率化について検討を進めたい。 ・すでに女子中学生向けホームページを開設している。今年度にリニューアルを検討しているが、広報戦略室との擦り合わせが必要である。また、昨年度作成した「長岡高専ガール」を県内・近県の中学校に配布し、女子中学生への広報活動を進めている。 ・オープンキャンパス(8月4日、5日)に女子中学生向けの展示ブース「目指せリケジョ！高専女子の進路と生活」を設置し、100名程度の来場者があった。また、同内容を学園祭(11月3～4日)の展示ブースにて展示し、啓発活動を行った。 ・7月12日に見附市立今町小学校で開催されたプログラミング教育講演会(見附市教育センター主催)や、9月5日に長岡市立阪之上小学校で開催された第68次 新潟県教職員組合 長岡支部 教育研究集会 技術・家庭教育分科会「プログラミング授業の実際とプログラミング教育について」で、本校教員が招待講演の講師を担当。本校で開発したプログラミング教材を紹介し、講演会に参加した中学校教員と今後のプログラミング教育の在り方について情報交換を行った。
・学校案内、オープンキャンパスポスターなどの内容充実を図る。	・年度当初に県内中学2年および3年生に配布するリーフレット、学校説明、オープンキャンパスポスターなどの基本デザインを統一するとともに、説明文の分量や内容の点検・改善を行った。年度当初からのPR活動を円滑に行うために、前年度中から準備を進めることを検討したい。
・入学者の成績状況を分析し、本校に適合できなかった学生の状況を入試との関係で把握する。 ・上記分析結果および前年度の検討を踏まえ、本校に適性を持つ入学者を選抜するよう、学力および推薦入試の選抜方法・選抜基準を点検する。 ・アドミッションポリシーに適した人材を選抜するため、面接調書の質問項目、評価項目の点検・改善を行う。	・本校に適合できず退学した1年生の学生に対して、入試結果と前期末試験および学年末試験の結果と比較する。成績結果の確定が3月下旬であるため、次年度5月末までに実施する。 ・入学時に連携シートが提出された学生に対して、作文の記述評価に相関があるかどうか11月に調査したが、明確な違いは見られなかった。その結果は、実験報告書や卒業研究報告書の作成に関わる文章表現の力を作文で測定することが困難であることを示唆しており、今後の入試においては作文の代わりに国語のマークシート試験を導入することを検討し決定した。 ・試験要項の策定時に、入学試験時の面接シートの質問事項の記載内容を点検し、必要に応じて修正した。
・進学説明会等でより具体的に本校および学科の教育内容を説明し、受験希望者が本校を正しく理解して進路を決定するような施策を継続的に行う。 ・女子中学生を対象とした講演会や体験学習を実施し、理系に興味を持ち、適性を持つ学生の確保を進める。 ・体験学習や出前授業、「青少年のための科学の祭典」への参加、長岡高専サイエンスフェスタin新潟の実施等を通じて、本科学・工学の啓発活動を進めるとともに、本校のブランドを広く広報する。これらの活動を通じて、本校に適性を持つ中学生の応募につなげる。	・オープンキャンパスおよび入試説明会のプレゼン資料を更新し、各学科の卒業生が働く職域などを加えた。入試説明会は参加者の利便性向上を考慮して、本校での実施を2回から3回に増やし、全体として8地区11回の開催を計画・実施し、前年比23%増となるのべ577名の参加があった。会場によって開催日に関する様々な意見があり、次年度以降の計画に反映させたい。進学説明会の報告やアンケート結果、プレゼン資料等はグループウェアで教職員に公開し、情報共有を行っている。 ・例年、長岡市が実施しているハイスクールガイダンスの中で、女子中学生を対象とした体験学習を実施しているが、今年度はハイスクールガイダンスが実施されなかったため、体験学習は未実施である。今後、体験学習の実施を検討する予定である。 ・8月のオープンキャンパスでの体験学習や出前授業は継続して実施した。オープンキャンパスはこれまでの最多となる1167人の来校者があり、各学科の体験学習は中学生の関心を集めた。3月3日に新潟自然科学館で長岡高専サイエンスフェスタを実施した。また、出前授業は例年どおり好評であり、県内小中学校で80件以上実施している。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
(2) 教育課程の編成等 ・学科を跨ぐ「学科専攻科横断型一貫教育プログラム」として平成25年度に創設した「新エネルギー創成教育プログラム」を継続・充実する。 ・教職員対象に、授業にPBLやアクティブラーニングを盛り込む方法やその効果に関する講演会を実施する。 ・産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等に対応するため、各学科の教育課程の見直し、教育課程の改訂を実施する。 ・教育課程の改訂実施後の学生の単位修得のためのフォローを検討実施する。 ・英語教育を促進するために専攻科特別研究発表会に英語による発表を盛り込む。 ・27年度英語科教員により試行したプレゼンテーション評価を特別研究発表会の評価に盛り込むことを検討する。 ・学際領域を含む広範な見識を得るため、全専攻合同による専攻科フォーラムを開催し、企業人・OB・OGによる講演を実施する。 ・最近の就職解禁時期を鑑み、進路情報を提供するような内容を盛り込む。	・学科専攻科横断型一貫教育プログラム「システムデザイン教育プログラム」をカリキュラム内に組み入れた。この課題解決型プログラムを34名の学生を対象に長岡産業活性化協会(NAZE)の企業の方々の支援を受けて夏休みに実施した。 ・12月20日に仙台高専の矢島先生をはじめ4名の先生に来校していただき、ファシリテーション技術に関する講演会とワークショップを全教員を対象に実施した。 ・次世代教育改革の一環として新しいコース制度(ヴァンガード・エンジニア育成プログラムとアントレプレナー育成プログラム)の2コースを新たに教育課程に導入した。これらのコースは各々4.5年のベーシックコースと、専攻科1.2年のエキスパートコースで構成されている。 ・単位再評価、卒業単位再評価の方法と時期について議論し、本方法が原級留置率低減や質保証を維持するものであることから継続を決定した。 ・英文タイトルの追記等の発表要旨の様式の改善を行うとともに、専攻科特別研究発表会(1月29日)において、1年生研究発表でポスター発表に加え英語ショートプレゼンテーション(3分間)を実施した。 ・PR活動の効果で専攻科生が増えた結果、英語科教員のみによるショートプレゼンテーション評価体制の維持が難しくなってきた。また、英語科教員に頼らずに指導する専門学科教員が増えてきたことから、今年度は、専攻科 1年生の半数を上限として、英語科教員によるショートプレゼンテーション事前指導を行った。評価に関しては「ショートプレゼン+ポスタープレゼン」の総合的な評価を行うとともに、優れた英語ショートプレゼンに対しては対して表彰を行った。 ・10月5日に全専攻合同で専攻科フォーラムを開催し、就職・進学活動報告会を実施した。内容は、進学、就職の活動報告に加え、就職ガイダンスとして、(株)マイナビから講師を招き、今年度の就活戦線と来年度の就活についての説明会を開催した。 ・進路情報を提供する活動として、上記専攻科フォーラムで行った就活に関する講演の他に、1月17日に大学院を招いて、大学院進学に関する進路ガイダンスを開催し、就職・進学いずれの進路希望に対しても情報提供を行った。
・各分野の基幹科目について、基本的な知識や技術の内容の精査とその修得状況を確認することを全学科で検討し、その定着を継続的に進める。 ・CBT試験結果の分析を基礎学力定着に向けた授業改善に活用する。 ・科目主任や担当者と協議して学力不足の項目について、対応策を策定し実施する。 ・TOEIC等を活用して英語力の状況を確認し、全学的な技術者としての英語力強化の取り組みを継続・強化する。	・学年末成績評価一覧表から、特に平均点の低い科目については、科目担当教員の教授法改善や研修制度について全学的議論として次年度に実施することを決定した。授業内容をMCCと関連付けて「学ぶ内容の質と範囲」について修正等を加え、不足なくMCCの内容を網羅した。 ・CBT試験結果が公表されたのちに、受験科目すべてを各科主任と各学科長にフィードバックし、学力の弱い単元の共通認識を全学的に促し教育改善に活用した。 ・学力不足の項目はCBT試験で上記担当者で把握するとともに、Webシラバス中の評価項目とループリックにより教員と学生が不足箇所について共通理解し、これらの相乗効果により教育改善に活用した。 ・学内TOEIC受験を、平成31年1月に 4年生全員及び希望学生を対象に実施した。
・学生による授業評価アンケートを継続しその結果を授業改善につなげる活動を進める。 ・特に低学年の一般科目の学力の定着について、対応策を策定し実施する。	・前期末試験終了後に、学生の授業評価アンケートをすべての科目について実施した。アンケートの回収と提出は学生が行うことに改善した。 ・本事項は、(2)②1、(2)②2、(2)②3と一緒に総括的に実施した。
・新入生対象のクラブ全員加入推奨制度を継続し、課外活動の活性化を図る。 ・高専体育大会、ロボコン、プレコン、デザコン、プロコンなどに積極的に参加する。 1)各種コンテスト結果に対する学生表彰制度を行う。 2)技術力の向上を目指し、外部コーチ等の活用を図る。	・4月、学園だよりで部活動紹介を行うとともに、学生会と連携して新入生対象の部活動紹介イベントを実施した。 ・高専体育大会に出場し、5競技で全国大会に進出した。また、ロボコン・デザコン・プロコンにも参加し、ロボコンでは1チームが特別賞を受賞した。 1)前期・後期の始業式で課外活動報告会を実施し、課外活動で実績を上げた学生を表彰した。表彰者数:前期90名、後期55名 2)課外活動指導員を2クラブに配置し、外部コーチを10クラブで依頼した。
・校内外の美化活動を行う。(校内は校内大清掃、校外はクリーン作戦) ・長岡市花いっぱいコンクールに参加する。 ・まちなかキャンパス長岡の一員として、市民協働事業に参加する。 ・前年度に比して献血者の増加を図る。 ・ボランティア活動など社会奉仕に係る様々な体験活動へ学生の参加を推奨する。顕著な活動をした学生を学生表彰の対象とする。 ・各種資格試験等に係る単位化を引き続き実施する。	・学生会と連携し、夏季休業前(8月2日)に校内大清掃を実施した。また、後期には校外を含むクリーン作戦を11月15日に実施した。 ・長岡市花いっぱいコンクールに参加し、努力賞を受賞した。 ・まちなかキャンパス長岡の学生委員として学生会役員が参画し、学生イベントの企画・運営に協力した。 ・ポスター掲示、一斉メール、ショートホームルーム連絡などで献血協力の呼びかけを行った。6月1日の実施では21名が受付をし、うち16名が献血を行った。11月の実施では19名が受付をし、うち15名が献血を行った。ただし、前年度との比較では、献血者数で15名減少しており、実施方法や周知方法に課題が残った。6月の献血実施に合わせ、長岡地域振興局医薬予防課の方にお越しいただき、献血受付時に骨髄提供希望者登録推進の普及啓発も行った。 ・例えば長岡市等からの依頼による社会活動への参加を推奨し、学生は特別欠席の措置と決定した。9月25日の後期始業式において、顕著な活躍をした学生を全学生前で表彰した。 ・単位を付与できる資格試験を定めて、これらについては単位化を継続した。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
・ICTを活用した教材の開発や授業を英語教育で実施する。 ・電子出席簿のタブレット端末利用を実施する。	・ICTを利用した英語授業のアンケートを実施した。グローバルエンジニアリングWGをつくり今後のエンジニアリング英語を全学で低学年から実施できるように教育戦略をまとめ、今後も計画の見直しを継続することとした。 ・電子出席簿の利用による学生指導の迅速化を図るため、出席簿入力時にタブレットが必要な教員に貸出できる制度を定めた。
(5) 学生支援・生活支援等 ・ハイパーQUアンケート、Σテストを継続実施し、その結果をフィードバックする。 ・全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に引き続き参加し、メンタルヘルス対応のスキルアップを図る。 ・専門カウンセラーと学生相談員及びハラスメント相談員による学生相談体制を維持し、カンファレンス等を通じて学生相談室と学級担任との連携を図る。 ・学生もしくは教員対象のメンタルヘルス関連講演会を企画、実施する。 ・連携支援シートによる特別支援が必要な学生の早期発見・対策に取り組む。 ・寮内にもメンタルケアが必要な学生が増加していることに鑑み、寮担当委員もメンタルケア研修会に参加する。	・6月：学校適応感尺度検査を本科生・専攻科生全員を対象に実施した。10月：1～3年対象にΣテスト、4・5年・専攻科生対象にこころと体の健康調査を実施した。あわせて検査結果をクラス担任等にフィードバックした。 ・第15回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修(国立オリンピック記念青少年総合センター、9月13・14日)に、学生主事と看護師(学生相談室員)の2名が参加した。 ・専門カウンセラー2名(週1回1名、隔週1回1名)と学生相談員及びハラスメント相談員による学生相談体制を維持し、各種相談に対応した。カンファレンスは6回(5/25、6/26、7/27、10/30、12/19、2/5)実施した。カンファレンスを通じて学級担任や担当教職員と連携して指導に当たった。 ・毎年2月に継続して実施している「就職学生メンタルヘルスガイダンス」を2月22日に実施した。また3月1日には、弁護士による教職員向け講演会を実施した。 ・連携支援シートを基に担当教員と情報共有し、特に支援が必要な学生への対策を協議し、連携して対応した。 ・3月1日に開催された学生相談室主催の学内教職員向けの研修会に寮担当委員も参加した。また、学生主事、寮務主事による月1回の情報交換会を実施し、学生支援体制の充実を図っている。
・寄宿者用備品の古くなったものの交換、充実を学生の要望を調査しながら整備する。 ・海外協定校の学生の来日時に宿舎として使用できる部屋の確保の方法を検討し実施する。 ・寮内のLAN回線設備が老朽化し代替品がなくなっているため、学内と同様のLAN設備導入を検討する。 ・チュラポーン王女SHS留学生の受入に伴い、寄宿舎の改修を早急に実施する。	・夏季、学年末の閉寮退室の際に、学生から居室のチェックシートを作成してもらい、備品の不具合箇所を把握するとともに、毎月実施される寮生役員との定例会の際に、寮への要望事項の報告を受けている。平成30年度は学生からの要望に基づき、洗濯機(2台)、乾燥機(5台)の増設を行った。 ・前期中は、海外協定校の学生の来日時に宿舎として、寄宿舎の空き部屋やゲストルームを使用し受入に対応した(11機関、合計45名受入)。後期はチュラポーン王女SHS留学生の受入に伴う寄宿舎の改修により、寮での短期留学生受入を一時停止した。 ・予算の都合上、学内と同様のLAN設備の導入は実施できなかった。寮内の備品整備と併せて整備の優先順位を決定し、今後も引き続き検討を行う。 ・10月から寄宿舎の改修を実施し、2月末に完成した。
・日本学生支援機構、地方公共団体、民間育英団体や企業奨学金制度の情報収集とその提供を積極的に行う。 1)保護者にメルマガの登録を呼びかけ、メルマガを通じた情報の発信を行う。	・各種奨学金について情報収集を行い、掲示板やメルマガ、SHR連絡などをおして情報提供を行った。また、6月実施の1学年合同保護者会においても奨学金の説明を行った。(4月～10月でのメルマガ送信数14回) ・メルマガ登録依頼文書を保護者宛てに送付し、本校ホームページにてメルマガ登録について案内を行っている。平成30年度11月6日時点での登録数は1,256件である。
・比較的早い段階から、各学科や女子学生に対応したキャリア教育講演会を開催し、進路選択の情報を提供するとともに、就業意識を育て、高い就職率を維持する。 1)OB、OGを活用したキャリア教育講演会の開催。 2)地域企業と連携し、地域の様々な職業の紹介を行う機会を設ける。 3)キャリア教育の計画及び実施を担当するワークグループにおいて、H29年度の実施計画を検討する。 4)1年生および2年生を対象に課題解決型授業を実施する。 5)学生個人の課題解決力や対人力といった、社会で求められる能力について測定し、その能力育成のためのアドバイスを得ることができるPROGテストを1年生、4年生および専攻科2年生を対象に実施する。 ・将来の進路を考える一助として環境都市工学科ホームページにて卒業生の企業での活躍状況を掲載しており、その拡充を図る(2016年度末:14組織、30名)。	・12月3日、10日、17日に物質工学科3、4年、物質工学専攻1年生を対象とした、柏崎市内の製薬会社および他4社よりのOB、OGによるキャリア教育講演会を開催した。 1)1月21日に環境都市工学科4年生向けに東京都内の建設会社よりのOGによる講演会を実施した。 2月15日に電気電子システム工学科4年生向けに長岡市内の製造業の会社よりのOGによる講演会を実施した。 2)専攻科1年向けの「地域産業と技術」の科目において、授業1回につき1社、計10社の企業から講師を招いて、企業紹介や職業紹介などを行った。 3年生向けに企業紹介を行う企業ガイダンスを12月3日に開催した。参加企業数は30社であった。 4)5月から7月にかけて、2年生の全クラスを対象に、企業が実際に直面している課題に対して解決案を提示する課題解決型授業を実施した。 12月および1月にかけて、1年生の全クラスを対象に、企業が実際に直面している課題に対して解決案を提示する課題解決型授業を実施した。 5)9月に1年生、11月に4年生、6月に専攻科2年生を対象としてPROGテストを実施した。 あわせて検査結果をクラス担任等にフィードバックした。 ・環境都市工学科のウェブページに、29年度の進路状況を新たに加え、また卒業生の活躍状況の更新も実施し、計18組織となった。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
(6) 教育環境の整備・活用 ・全学的な視点に立ち、環境に配慮した教育施設の整備計画の見直しを定期的に行う。 ・キャンパスマスタープランの見直しを行い、建物ごとの適切な改修計画、給排水・電気・ガス等の基幹設備の適切な整備計画を盛り込む。 ・施設の利用状況調査を実施する。 ・平成30年度中に電話交換機、防災設備を更新する。 ・平成30年度中にチュラポーン王女SHS留学生受入のため、寄宿舍1,2号館をシェアハウス型(混住型)に改修する。	・教育施設整備計画の見直しを行い、使用状況の少ない施設をKOSEN4.0イニシアティブ事業(Air Techエンジニアの育成)への転用を実施した。 ・4号館改修の予算要求を継続して行う。 平成30年度の整備の進捗状況等確認し、見直しを行った。 ・施設の利用状況調査は準備が整わず実施できなかった。引き続き施設の利用状況調査を実施する。 ・電話交換機、防災設備を更新工事を発注、契約し、平成30年12月7日に完成した。 ・チュラポーン王女SHS留学生受入のため、寄宿舍1,2号館をシェアハウス型(混住型)に改修する工事を契約し、平成31年2月28日に完成した。
・PCB処分計画に基づき平成29年度PCB処理報告及び、PCB保管状況報告を提出する。	・PCB処分計画に基づき平成29年度PCB処理報告及び、PCB保管状況報告を提出した。
・「実験・実習安全必携(機構18年)」を再配布し、学科長の責任のものとに学科ごとに実験実習の安全策をまとめ、実験実習の最初の授業で口頭で指導する。	・昨年度と同様に「実験・実習安全必携(機構18年)」を配布し、実験実習の担当教員は各実験実習の注意事項安をまとめ、最初の授業で口頭で指導を行った。
・男女共同参画室室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、学内で報告会を開くなどして情報を共有する。 ・女子学生向けのワーク・ライフ・バランス講演会を実施する。	・平成30年度女性研究者交流会およびダイバーシティシンポジウム(8月19日)に参加した。また、新潟大学ダイバーシティ事業シンポジウム(12月11日)に、室長がパネリストとして参加した。学内で教職員向けの研修は3月11日に新潟大学の中野准教授を講師に開催した。 ・第3学年合同特活(1月10日)において、「高専生に知っておいて欲しい男女共同参画」の講演会を開催した。また、女性限定で開催された第41回技術サロン(3月16日)に女子学生2名が参加した。いずれも、今後のライフイベントと働き方に関して考える機会となった。
2 研究や社会連携に関する事項 ・補助金を得た科学研究費申請書の公開を行う。 ・科研費申請に関する校内ピアレビューシステムの構築を検討し、システムの導入を図る。 ・外部資金獲得に向けた講演会を実施する。 ・機構の研究推進モデル校の経験を生かして、JSCOOPやプレラボ事業への教員の参加者数を増やし、校内の研究の推進を図る。	・補助金を得た科学研究費申請書の公開を行い、機構本部が作成した科学研究費採択事例集(H28年度版)を再配布すると共に、H30年度採択事例集を参照できるようにした。 ・科学研究費申請の校内ピアレビューシステムを構築し、10件のピアレビューを実施した。 ・機構KRAの来校(H30年度はこれまでに3回)、JSTによる説明会の際に外部資金獲得を目指している教員に個別面談を行っていただいた。機構がテレビ会議システムで配信した科研費申請講習会を案内し、30名以上の教員の参加を得た。 ・研究推進モデル校の活動グループであるシステムデザイングループをベースにし、KOSEN4.0イニシアティブプロジェクトの次世代教育への改善(海外課題解決型教育、アントレプレナー教育)に繋がっている。JSCOOPの参加学生は29名であり(H29:22名)、抽出した課題は低学年の課題解決教育や国際関係学演習などへ展開している。平成30年度のプレラボ事業は33件であり(平成29年度:22件)、参加教職員数は延べ90名であった(H29:40人)。
・財団法人にいがた産業創造機構(NICO)との連携による長岡モノづくりアカデミーCAEコース等の研修事業を継続して実施する。 ・自治体や本校技術協力会及びNPO法人長岡産業活性化協会(NAZE)等と連携し、学生・教職員向け企業見学会、企業向け学校見学会を実施する。 ・本校の研究力並びに共同研究等の成果を公表するために、県内外の展示会等に参加する。 ・地域共同テクノセンターの活用促進に向けて、共同利用設備の利用方法、利用費等について検討する。自治体、本校技術協力会、NAZE、NICO、長岡技術科学大学及び金融機関と連携を強めて、技術相談の受け入れ件数を増やす。	・NICOものづくりアカデミーにおける連携状況は以下の通り。 1) 基礎コース(6.0/48.0h、7－8月) 29名受講 2) 専門Iコース(7.5/46h、6－10月) 19名受講 3) 材料講座(2.5/7.5h、7月) 6名受講 4) 3次元CADコース(6.5/34.5h、9月) 25名受講 5) CAEコース(3.5/48.5h、10－11月) 12名受講 6) 初めての電子回路・制御講座(15.0h、11月) 10名受講 7) やさしい図面の読み方・描き方講座(13.0h、2月) 38名受講 ・NAZE会員企業見学会(9/21、3社):参加学生46名、引率2名。 第3学年工場見学:実施費用を長岡高専技術協力会が負担(電気電システム工学科、電子制御工学科、物質工学科)。 長岡近郊区域内中小企業見学(9/27、8社):実施費用は長岡市負担(機械工学科)。 第3学年全員を対象にした長岡高専技術協力会主催・企業ガイダンス(30社、12/3)を実施。 土木・建設分科会 現場見学会(10/31、ACCI1年及び会員企業対象):実施費用は長岡高専技術協力会が負担。 ・第8回おおた研究開発フェア(10/25、26)参加:機械工学科・准教授・山岸真幸、地域共同テクノセンター 燕三条ものづくりメッセ2018(10/24－26)参加:地域共同テクノセンター ・テクノセンター利用費は、徴収する方向で作案中。 「2018教員プロフィール集」を作成・配布した。 配布先:長岡市(20部)、新潟市(50部)、新潟県(25部)、NAZE、NICO、(公財)燕三条地場産業振興センター、長岡商工会議所(20部)、長岡技術科学大学、第四銀行(20部)、北越銀行(20部)、大光銀行(70部)、長岡信用金庫(20部)、ほか 技術協力会リーフレットを作成・配布した。 技術相談(テクノセンター取り扱い分):10件、うち6件が共同研究・寄付金に移行(計2,585千円)

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
・知的財産に関する重要性の啓蒙活動として、知財講演会及び個別の技術相談会を引き続き開催する。 ・技術科学大学や他高専と知的財産に関する連携を深め、特許出願数の増加を図る。	・知財に関して発生した問題は弁理士、機構の知財部と個別に相談して解決した。知財に関する講演会は弁理士と日程が合わず開催できなかった。次年度に開催する。 ・平成30年12月に知的財産に関するセミナーに参加し他機関と知的財産の意見交換を行った。 平成30年度の知的財産の申請は4件であった(平成29年度は2件)。また、本年度は知財により権利収入を得ることができた。
・教員プロフィール集の充実を図り、ホームページによる公開を継続する。 ・教員プロフィール集をResearchmapにリンクさせ、情報の更新を行う。	・平成30年8月に2018教員プロフィール集を更新し県内の関連企業に配布し周知した。 ・6月に教員プロフィール集をResearchmapにリンクさせ、7月、10月に情報更新を全教員に依頼した。
・公開講座および出前授業に継続して取り組み、その充実を図る。 ・まちなかキャンパス長岡における本校教職員による講座を継続しつつ、その充実を図る。	・30テーマを用意し、出前授業は92件、体験授業は7件を実施した。体験学習テーマは中学校等へ送付するとともに、公式Webページでも掲載して利用を呼び掛けている。利用者からのフィードバックの収集および本校のPRに結び付けていくことが課題である。 ・まちキャン通信6月号にて、長岡高専の紹介記事(オープンキャンパスの案内と学生による自慢の研究室紹介)が掲載された。長岡市と連携したまちなかキャンパスがプロデュースする講座(まちなかカフェ、まちなか大学、こどもカフェ、こども大学)の7講座で本校の9名の教員が講師を務めた。5講座に関しては、全て定員を超える申込数であった。
3 国際交流等に関する事項 ・学術協定を結んだ泰日工業大学(タイ)との相互訪問を継続して行い、学生・教職員間の交流を活発なものとする。 ・学術協定を結んだマレーシア国立高等技術訓練校(ADTEC)マラッカ校との相互訪問を実施する。またADTECマラッカの教員に対して、ロボット作製技術の講習を行う。 ・学生海外派遣研修をアジア地域を中心として数か国で実施し、多くの学生が異文化体験に参加できるようにする。 ・タイ王国、シンガポール、フィンランド等の国に本科5年生、専攻科生を派遣し、3ヶ月間の海外インターンシップを実施する。 ・キングモンクット工科大学(タイ王国)、ナンヤンポリテクニク校(シンガポール)、IUTリール校(フランス)、トゥルク応用科学大学(フィンランド)等の学生の長岡高専への受け入れを実施する。 ・さくらサイエンス等のプログラムを利用し、マレーシア、モンゴル、中国等の海外からの団体の受け入れを実施する。 ・トビタテ留学JAPAN派遣プログラム、JASSO短期派遣プログラム等を利用し、学生の海外留学を図る。	・7月に泰日工業大学の教員と学生合わせて18名が長岡高専に来校した。長岡高専は9月に教員と学生合わせて16名が泰日工業大学を訪問し相互交流を行った。 ・さくらサイエンスプランで11名(学生10名職員1名)を受入れ、学生交流を実施した。また、平成31年2月にADTECマラッカ校を訪問し、協定の更新を行った。 ・学生海外派遣研修をモンゴル(9名)、マレーシア(19名)、タイ(16名)の3カ国で9月に実施し、海外学生との交流、異文化体験を経験した。メキシコに関しては、2019年の3月に実施した。 ・8月～11月にフィンランドに4名、シンガポールに2名、台湾に1名の計7名を派遣した。(本科5年生3名、専攻科生4名) ・4月～8月にフィンランドから1名、フランスから2名、シンガポールから4名、タイから3名の短期留学生をそれぞれ2～3ヶ月間受入れた。 ・JSTさくらサイエンスプランで10月にADTECマラッカから11名(学生10名職員1名)と11月に広東東軟学院から11名(学生10名、教員1名)を受入れた。 ・トビタテ留学JAPANの全国版、地域版で各1名が採択され、シンガポールと台湾で長期インターンシップを実施した。上述の学生海外派遣研修で27名がJASSO短期派遣プログラムを利用した。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
・機構留学生交流促進センター事業(たとえば留学生・国際交流担当者研究集会、アジアの学生の高専体験プログラム等)に積極的に参加する。 ・マレーシア政府、国費、私費の留学生を継続的に受け入れる。特に私費留学生の積極的受入とその奨学金確保のための努力を行なう。 ・PBL型の国際関係学演習の授業を通じ、留学生と日本人学生の交流の機会を増やし、活動の成果を地元企業を招いた成果発表会や新潟県国際交流協会主催の国際理解教育プレゼンテーションコンテストといった場で発表する。 ・国際交流推進センターと英語科、地球ラボ室が連携し校内英語エッセーコンテスト等を実施する。 ・語学学習支援の一環として、英語多読など語学学習の実践を支援する。 ・長岡市国際交流協会、むつみ会(長岡技術科学大学の留学生支援団体)等と連携し、留学生向けの日本文化体験イベントや日本語スピーチコンテストへの参加を促す。 ・平成30年度中にチュラポーン王女SHS留学生受入のため、寄宿舍1,2号館をシェアハウス型(混住型)に改修する。	・機構留学生交流促進センター事業の開催案内が現時点では届いていないが、案内があれば、留学生に周知する。また、機構国際交流センター主催の7月5日～6日に実施された全国国立高等専門学校 国際交流室・国際交流センター長会議に国際交流推進センター長が出席した。 ・今年度は、マレーシア政府派遣2名、モンゴル政府派遣1名、国費留学生が3名の計6名である。昨年度の編入学生数と同数である。今後は、留学生にとって魅力的な高専づくりをすることで、私費留学生の獲得に努めたい。 ・平成30年度4月より隔週間隔で国際関係学演習を継続して実施している。本校留学生と日本人学生合わせて25名が受講しており、今年度はこれに加えてフランス、フィンランド、タイからの短期留学生4名も参加し、国際交流の場としても機能している。12月16日に開催予定の国際理解教育プレゼンテーションコンテストに2チーム(19名)がそれぞれのテーマについて発表した。 ・10月4日に英語科の主催のもと校内スピーチコンテストを実施した。参加希望者2名(いずれも本科1年生)に対して、英語科教員が指導・評価し、11月17日に小山高専で開催される関東甲信越地区高専弁論大会のレシテーション部門に出場した。 ・英語多読を支援するニコニコReadingカードを地球ラボで配布している。 ・長岡技術科学大学の留学生支援団体であるむつみ会が主催する日本語スピーチコンテストが9月29日に開催され、本校からは留学生2名が出場し、それぞれ特別賞を受賞した。また、以下の各種イベントに参加し、留学生と日本人との交流を図っている。4月～7月「日本語ひろば」、5月16日「World Cafe～世界の茶の間～フィンランド・フランス」、6月30日「ペアレントDay留学生との交流」、8月1日「世界の仲間と楽しく踊ろう！長岡まつり平和祭「大民謡流し」、10月13日14日「柏崎ホームステイ」、11月5日「留学生のためのモノづくり企業見学会」にのべ人数51名(留学生30名、日本人学生3名、短期留学生18名)が参加した。 ・チュラポーン王女SHS留学生受入のため、寄宿舍1,2号館をシェアハウス型(混住型)に改修する工事を契約し、平成31年2月28日に完成した。
・留学生の日本文化探訪研修旅行を実施する。 ・遠足等学生会行事、文化祭、スキー研修等による日本人学生と留学生との交流プログラムを企画・実施する。	・6月23～24日に留学生17名と留学生チューター(日本人学生)13名、長岡高専への短期留学生8名とで、長野県への研修旅行を実施し、日本文化探訪体験を行うとともに、日本人学生と交流をした。 ・遠足行事は雨天のため中止であったが、屋内でのスポーツ大会に参加した。文化祭においても留学生で模擬店を出店するなど、日本人学生との交流は順調に進んでいる。1月に予定していたスケート研修は、スケートリンク側の事情で中止した。
4 管理運営に関する事項 ・予算の効率的な学内配分及び更なる一般管理費の削減を行う。	・予算編成及び執行にあたり、平成30年4月及び5月の企画運営会議において以下の決定を行い、実施した。 ①「平成30年度予算編成に係る基本方針等」を策定し、本方針に基づき平成30年度予算配分を行った。 ② 各科目の配分額については、所要見込額に対し必須経費以外については5～20%圧縮して配分を行った。
・高専機構本部主催による管理職を対象とした研修会等に参加させる。	・高専機構本部主催の管理職研修に教員2名、職員2名が参加した。
・危機管理マニュアルの修正、追加等を行い、危機管理の徹底を図る。 ・海外渡航安全管理マニュアルの修正、追加等を行う。 ・危機管理研修会及び情報セキュリティ研修会を実施する。 ・危機管理室会議を定期的で開催し、学校における危機管理を徹底する。	・危機管理マニュアルの修正、追加について、情報セキュリティインシデント発生時の連絡体制を見直した。 ・海外渡航安管理マニュアルの修正、追加等については、今年度は特に必要が生じなかったため行わなかった。次年度以降も引き続き検討を行う予定である。 ・危機管理マニュアルの修正、追加等を行ったのち危機管理研修会を実施する予定であったが、研修会講師との日程調整ができなかったため今年度は実施を見送った。次年度以降実施を計画する。 ・今後、マニュアル改訂のため定期開催を行う予定であったが、今回のマニュアル改訂は、情報セキュリティインシデント発生時の連絡体制見直しに止まったため、危機管理室会議の定期開催は行わなかった。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
・公的研究費使用マニュアルを周知徹底する。 ・毒物・劇物検査、納品検収、不動産検査、物品検査の本校マニュアルを作成し、それに基づいた内部監査を実施する。 ・公的研究費のガイドラインの改訂に伴い、以下の取組策を行う。 (1)旅行報告書に宿泊先の名称及び出張先での対応者の氏名を記載する。 (2)本校「物品等納品検収マニュアル」(改訂版)による納品検収を確実に実施する。 ・監事監査及び高専相互内部監査の結果を踏まえ、内部監査を計画・実施する。	・平成30年9月10日の教員会議において、高専相互会計内部監査の平成29年度監査報告に取り上げられた改善事項を紹介し、併せて研究費の執行にあたっては、関係規則及び「公的研究費使用マニュアル」に従って執行するよう、周知した。その説明の際には同マニュアルに記載されている「背景と目的」「研究費の使用にあたっての注意事項」の文言を引用し、守るべき事項等を具体的に説明した。 ・平成31年2月に、毒物・劇物検査、物品検査マニュアルに基づいた内部監査を実施した。 ・旅行報告書に宿泊先の名称及び出張先での対応者が未記入の場合、記入のうえ再提出するよう指導している。平成30年12月に調達係において「物品等検収マニュアル」についての勉強会を実施、検収手順を改めて確認し、検収を確実に実施した。 ・平成30年度高専相互会計内部監査事項に準拠した、本校独自の内部監査を平成30年12月に実施した。
・高専機構本部主催、国立大学等の主催する研修会に積極的に参加させる。	・高専機構本部主催の職員研修に2名、各高専主催の職員研修に2名、関東・甲信越地区国立大学法人主催の職員研修に2名、県内国立大学法人主催の職員研修に2名が参加した。
・国立大学や高等専門学校間の人事交流を計画的に行う。	・新潟大学から3名、長岡技術科学大学から3名の事務職員を人事交流で受け入れている。
・校内ネットワークシステムの情報セキュリティ対策の見直しを図る。 ・教職員の情報セキュリティ意識向上のため、啓発活動を実施する。 ・教職員の情報セキュリティ意識向上のための研修を継続して実施していく。	・学生用メールシステムに対する不正アクセス対策として、Fail2banを導入(10月)、ファイアウォールのルール棚卸(11月)を行うなど、情報セキュリティ対策の見直しを随時行っている。 ・パスワードの使いまわしをしないなどの啓発を教員会議において実施し(9月10日)、全学生に対しては情報セキュリティ講話を実施した(9月25日始業式)。 ・教職員を対象とした情報セキュリティe-learningを12月末までに実施完了した。全学生を対象とした共通システム利用のためのe-learningを実施した。
・第三期中期目標期間における中期計画を達成するための具体的な事項を年度計画として各部署で策定し、それを第三期中期目標期間の各年度に割り振る。高専機構による年度計画のフォローアップにより、計画の進捗状況を確認し、計画の変更、追加、見直しを行い、改善を図る。	・第三期中期目標期間における中期計画を達成するための具体的な事項を年度計画として各部署で策定した。年度計画のフォローアップにより、計画の進捗状況を確認し、計画の変更、追加、見直しを行い、改善を図る。

平成30年度 年度計画 (長岡工業高等専門学校)	進捗状況や課題
5 業務運営の効率化に関する事項 ・一般管理費の削減に必要な業務運営の見直し、光熱水量などの削減を図り、業務の効率化を行う。 ・各種契約内容の見直しを図り、新たな契約手法(リバースオークション等)について引き続き検討する。	・平成30年6月14日の教員会議において、本校における最大需要電力が増大した際の電力グラフや、夏期における電気・ガス使用量の抑制のための具体行動等を提示し、省エネと計画的な電力使用への協力を要請した。 ・事務用パソコンの賃貸借契約について、賃貸借を行っているパソコンは平成30年3月末がリース期限であったが、業務ではまだ十分使用可能であったことから、新しいパソコンを賃貸借せず、それまで賃貸借していたパソコンを引き続き賃貸借することで、賃貸借額を年額1,134,000円から187,920円に引き下げることができ、経費の圧縮に繋がった。新たな契約手法(リバースオークション等)については、平成30年度においては、適当な調達案件の該当がなかった。